

2022（令和4）年度

教職課程

自己点検評価報告書

茨城キリスト教大学

令和5年7月

茨城キリスト教大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・文学部（児童教育学科児童教育専攻，児童教育学科幼児保育専攻，現代英語学科，文化交流学科）
- ・生活科学部（心理福祉学科，食物健康科学科）
- ・看護学部（看護学科）
- ・経営学部（経営学科）

茨城キリスト教大学大学院 教職課程認定研究科一覧

- ・文学研究科（英語コミュニケーション専攻）
- ・生活科学研究科（食物健康科学専攻）
- ・看護学研究科（看護学専攻）

大学としての全体評価

茨城キリスト教大学には、文学部、生活科学部、看護学部、経営学部がありそれぞれが教職課程を有している。教員免許は、文学部児童教育学科では小学校教諭一種免許状，特別支援教諭一種免許状および幼稚園教諭一種免許状が設置されている。現代英語学科では、中学校・高等学校一種免許状（英語）が，文化交流学科では中学校一種免許状（社会）と高等学校一種免許状（地理歴史）が，それぞれ設置されている。生活科学部心理福祉学科では，中学校一種免許状（社会）と高等学校一種免許状（公民・福祉）が設置されている。食物健康科学科では，中学校・高等学校一種免許状（家庭）および栄養教諭一種免許状が設置されている。また，看護学部看護学科では養護教諭一種免許状が，経営学部経営学科では中学校一種免許状（社会）と高等学校一種免許状（公民）が設置されている。また文学研究科では英語の専修免許状を，生活科学研究科および看護研究科では，それぞれの校種に応じた専修免許状を取得可能である。

本学の教職課程は，上記の各学部学科および関連する各部署が連携して実践されている。その中でも教職課程の中核を担うのが教職課程委員会と教員採用試験対策室である。教職課程委員会は，教職科目の開設とカリキュラム運営，教育実習の送り出しに係る判定，および教員志望学生のためのシンポジウム等の企画・運営を行っている。教員採用試験対策室は，採用試験の講習や模擬面接，小論文指導だけではなく，教職課程に係る学生の様々な個別相談にも親身に応じるなど学生の志望意欲を高める対応を行っている。本学の教員志望者数及び就職率は高く，例年各校種あわせて 70 名前後が教諭として現役で合格している。

以上のように，本学の教職課程は，「強い情熱」「確かな力量」「総合的な人間力」のある教師を育成するべく，適切に機能している。その基盤には，茨城キリスト教大学と茨城県教育委員会をはじめとする各教育委員会や地域の教育機関との十分な連携体制が確立していること，さらには各学部学科教員・職員による教職を志望する学生たちへの実践的指導

力の向上という目標の共通理解が誠実に実践されていることが挙げられるであろう。一方で、次の点に課題が残っている。

(1) 小学校課程の教職履修学生の減少

(2) ICT の有効的な活用

これらの課題に真摯に取り組み、教員養成課程を有する大学としての更なる充実・発展を目指したい。

茨城キリスト教大学

学長 上野 尚美

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	9
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	16
III	総合評価	20
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	20
V	現況基礎データ一覧	22

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：茨城キリスト教大学・大学院
- (2) 所在地：茨城県日立市大みか町6-1-1
- (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数：	文学部	教職課程履修 449 名/学部全体 1136 名
	生活科学部	教職課程履修 55 名/学部全体 630 名
	看護学部	教職課程履修 61 名/学部全体 354 名
	経営学部	教職課程履修 4 名/学部全体 310 名
	大学院	教職課程履修 0 名/研究科全体 15 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）149 名／全体 347 名

2 特色

建学の精神である「隣人愛」に基づく共生の精神を土台として、学問の探求の基盤となる教養と知識、技術を習得し、地域社会に貢献できる教師を育成している。

4学部8学科専攻から成る大学では、幼稚園、小学校、中学校英語、高等学校英語、中学校社会、高等学校公民、高等学校地歴、高等学校福祉、中学校家庭、高等学校家庭、栄養、養護の各一種免許取得課程を擁し、3研究科から成る大学院では、中学校英語、高等学校英語、中学校家庭、高等学校家庭、栄養、養護の各専修免許取得課程を擁している。

共通して「強い情熱」「確かな力量」「総合的な人間力」のある教師を育てるべく、教育課程を編成している。

「強い情熱」をもった教師の育成：「キリスト教の精神と文化」「キリスト教教育

論」「労作体験」等，建学の精神であり学位授与方針にも謳われた「隣人愛」に基づく共生の精神を，教職課程における学びの根底に据えた．正課外活動（学校ボランティア等）では，1年次より地域の学校でボランティアとして児童生徒と学校生活を共にする体制を整え，正課活動と正課外活動の両輪による動機づけを強化している．教職に就くことを強く志望する学生には，低学年次よりキャリア支援センター・教員採用試験対策室にて相談，指導を受ける機会を設けている．

「確かな力量」をもった教師の育成：示範授業，模擬授業，マイクロティーチング等の正課活動から学位授与方針に謳われた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を高め，実践的な指導力を育成する．学校ボランティア，大学附属子ども園での研修，幼児・児童・生徒に対する読み聞かせや人形劇等を行なうサークル活動，家庭教師・学習塾アルバイト等の「実体験型正課外活動」を支援し，その充実を図っている．現場経験を有する教員の積極的採用等により「理論と実践の整合性」を研磨している．また「強い情熱」は「確かな力量」を身につけ発揮する時はじめて具現し証明されうることを，教職員と履修者の双方が深く認識しながら追究している．

「総合的な人間力」をもった教師の育成：入学時から，人生をより豊かに潤す幅広い教養，国際的感性，学際的力を培う科目群を擁した全学教養課程を充実させ，学位授与方針に謳われた「公正性」「学修に主体的に取り組む態度」を育成している．教職課程の履修と並行して，全学教養課程において，教師を目指す学生のみならず，様々な夢を持って入学した学生たちが交流し，相互理解を深めながら，幅広く人間を理解するための基礎的な力を培っている．さらに教育における専門的知見・技能を培う専門科目群と，正課外活動をもって「広く深い体験」に裏打ちされた総合的な人間力（全人性）を陶冶する．

.....

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学の教職課程における目的・目標、育成を目指す教員像については大学 HP に公開されており、教職課程委員を通して教員に周知されている。学生には教職課程教育の目的・目標を大学 HP に公開しており、ガイダンス等を通して学生に周知している。また『教職課程履修の手引き』において、教職課程教育の履修者心得を明示している。

本学の教職課程教育は、建学の方針である「隣人愛」に基づく共生の精神を土台として、教員を目指す学生に「強い情熱」「確かな力量」「総合的な人間力」を陶冶することを目標としている。これらは大学 HP 上に公開されており、ガイダンス等を通して学生・教員に周知されている。学生は『IC 教職履修カルテ』において4年間を通じた到達目標を確認することができる。

文学部児童教育学科児童教育専攻は、主として教員養成を行う学科であることから、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーにおいて目指すべき教師像を明確に記述している。

文学部児童教育学科幼児保育専攻は、各年度当初に資格ガイダンスの時間を設定し、教職課程履修を希望する全学生が、教職課程教育の目的・目標を共有し、卒業までの見通しを持って、主体的に教職科目を履修できるよう支援している。……

文学部現代英語学科は、1.留学を含むグローバル分野、2.ホスピタリティ系分野、3.通訳・翻訳を含む言語学系分野と並ぶ、4つの柱の一つとして教職課程教育を実施している。英語教員を目指す学生を育成することの重要性は、学科の目的・目標

として認識され、教免必修科目担当教員のみならず、学科の教員全員に共有されている。 ……………

文学部文化交流学科は、多文化理解・多文化協働に関する実践的な経験とスキルの獲得に重点を置いたディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを設定している。教職課程教育についても、社会が多様化する現代に対応した新しい教師像の確立を目指している。こうした目的・目標を『履修要覧』等に記載し、新入生オリエンテーション等で学生に周知している。 ……………

生活科学部心理福祉学科は、豊かな教養とともに心理と福祉にかかわる専門的諸能力の獲得をディプロマ・ポリシーとしている。詳細は学生必携の『履修要覧』に明示されており新入生オリエンテーションをはじめ各年次オリエンテーション等で学生に周知、共有されている。生活科学部食物健康科学科は栄養教諭及び中学校・高等学校家庭科教員免許の取得が可能である。管理栄養士と教員免許の両方が取得できる大学は近隣にない。

看護学部看護学科は、「よき生」を支え育むことに寄与する「知恵」を持った看護人財の育成というディプロマ・ポリシーのもと地域で貢献できる人財の育成を目的に教育課程が編成されている。

経営学部経営学科は、経営学の専門知識、経営に関する倫理観と行動力を持ち、将来を見据える能力を備えた人財の育成をディプロマ・ポリシーとしている。教職課程教育についての詳細は『履修要覧』に記載し、学生に周知している。なお、本学科では 2023 年度に教職課程を返上し、2025 年度をもって教職課程を修了する見込みである。

……………

〔長所・特色〕

本学の教職課程における長所・特色は、教員養成の目標とその建学の精神である「隣人愛」に基づく共生の精神を土台として、学問の探求の基盤となる教養と知識、技術を習得し、地域社会に貢献できる教師を育成することである。学部・大学院を

通して計 18 の教職課程では、共通して「強い情熱」「確かな力量」「総合的な人間力」のある教師を育てるべく、教育課程を編成している。また、教職科目に「キリスト教の精神と文化」「キリスト教教育論」「労作体験」等、建学の精神であり学位授与方針にも謳われた「隣人愛」に基づく共生の精神を学びの根底に据えていることも、本学における教職課程の大きな特徴である。

文学部児童教育学科児童教育専攻は、教育実習担当教員が中心となり、教職を目指す学生の授業態度等について毎月の学科会で確認を行っている。

文学部児童教育学科幼児保育専攻は教職課程を自覚的に履修することができているか確認するため、3、4年次に、ゼミ教員が、担当学生 10 名程度の履修カルテを一人ひとりチェックし、履修カルテを書く意味を確認し、適切な記入を行うよう指導している。 ……………

文学部現代英語学科は、茨城県で英語教員となる人材を近年特に輩出している。学科の特徴として英語母語話者教員の比率が高く、すべて英語による授業が多く行われ、英語圏の大学から招致するインターン生が常時キャンパスにいることもあり、学生は常に英語に触れる学生生活を送っている。 ……………

文学部文化交流学科は、学生向けの教職課程に関する手引きを教職員にも配布することで、教職課程教育の目的・目標に関する共通理解を、教職員間だけでなく学生とも広く共有している。また、学科会議等でも教職課程教育の目的・目標の共有に努めている。 ……………

生活科学部心理福祉学科は、社会福祉士国家試験受験資格及び公認心理師国家試験受験資格（一部）の取得が可能である。人間心理及び社会に対する科学的かつ実践的態度を備えた対人支援にかかわるよき人財を育成するという学科特色を活かし、教科「福祉」をはじめ社会科学に関する専門性ととともに人間心理や社会、環境調整に関する知識と技術を備えた教員養成を長所としている。

生活科学部食物健康科学科は、生活科学部食物健康科学科の専門教科内容を生か

して食育や家庭科教育に深みと広がりを持たせることができる。管理栄養士資格取得との両立は非常に大変だが、教員免許と両方を手にして卒業する学生は多い。

看護学部看護学科は、ディプロマ・ポリシーのもと、本学教職課程の目標を具体化し、特に「総合的な人間力」を「コミュニケーション能力」「研究的態度」「倫理性」をもって構成した。履修簿に「目指す教師像」として掲載し、学科教員と共有している。全教育課程を通じて「隣人愛」を学ぶことを重視しており、このことから、多様な子どもたちを理解するという態度が備わった教師を育成している。

経営学部経営学科は、2011年度の経営学部開学以来、2022年度の卒業生までの12年間で、教員免許取得者は計5名にも満たないが、教職志望者にはゼミ担当教員を中心にきめ細かい指導を行っている。

〔取り組み上の課題〕

教職課程教育の目的・目標は大学HPに公開されており、ガイダンス等を通して学生に周知されているが、その多くは1年次に受ける最初のガイダンスに留まっております。十分な定着が図れていないことが課題である。教職課程履修の心得も同様である。毎年度の学年別ガイダンスや教育実習の事前指導を通して、繰り返し学生に指導していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

・資料1-1-1：茨城キリスト教大学ウェブサイト 「教職課程に関する情報公開 1.教員養成の目標とその計画」

https://www.icc.ac.jp/about/disclosure/No.12/teacher_goal.pdf

・資料1-1-2：『教職課程履修の手引き』

・資料1-1-3：『IC教職履修カルテ』

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学の教職課程は、研究者教員のみならず学校現場での優れた実践的経験を有する教員（30.2%）との協働体制を構築している。目標とする学習成果の1つ「強い情熱」は、「確かな力量」を身につけ発揮する時はじめて具現し証明されうることを、教職員と履修者の双方が深く認識しながら追究している。それぞれの授業担当の詳細は、大学 HP「3.教員の数及び各教員が担当する授業科目（大学）」、「4.教員の数及び各教員が担当する授業科目（大学院）」、及びシラバスを参照のこと。

教職課程の運営に関しては、教職課程委員会を中心に各学科・専攻の教職課程についての情報交換や意思疎通を図っている。また、学務部や教員採用試験対策室、各教育実習担当教員とも連携し、教職課程の計画・実施・観察・評価を行っている。組織の詳細は大学 HP「2.教員養成に係る組織」を参照のこと。

2022年度より、教職課程のあり方を恒常的に自己点検・評価するための取り組みを開始している。教職課程の自己点検・評価は毎年行い、自己点検・評価報告書を毎年作成する。

〔長所・特色〕

現場経験を有する教員の積極的採用等により、教職課程における「理論と実践の整合性」を研磨している。また教職に関わる授業の振り返り・報告等の場として、毎年、「教職課程論集」を発刊している。

教職課程を有する全学科専攻の代表教員が教職課程委員会に参加しているため、各学科における教職課程の現状や課題を共有しやすい組織となっている。……

〔取り組み上の課題〕

教職課程委員長を含めた各学科専攻を代表する教職課程委員が 2 年ごとに変更される可能性があるため、確実な引き継ぎの実施が課題である。

本学は学部のみに限っても 8 つの学科専攻において教職課程が編成されているため、教員採用試験対策講座と各学科のスケジュールの調整が難しく、就職支援組織との連携に困難を抱えている。全ての学生が参加できる仕組みを整える必要がある。

.....
.....
<根拠となる資料・データ等>

・資料 1 - 2 - 1 : 茨城キリスト教大学ウェブサイト 「教職課程に関する情報公開 3.教員の数及び各教員が担当する授業科目 (大学)」

https://www.icc.ac.jp/about/disclosure/No.12/teaching_course.html

・資料 1 - 2 - 2 : 茨城キリスト教大学ウェブサイト 「教職課程に関する情報公開 4.教員の数及び各教員が担当する授業科目 (大学院)」

https://www.icc.ac.jp/about/disclosure/No.12/teaching_course.html

・資料 1 - 2 - 3 : 茨城キリスト教大学ウェブサイト 「シラバス」

<https://securewww.icc.ac.jp/unipa/faces/up/po/Poa00601A.jsp>

・資料 1 - 2 - 4 : 茨城キリスト教大学ウェブサイト 「教職課程に関する情報公開 2.教員養成に係る組織」

https://www.icc.ac.jp/about/disclosure/No.12/teacher_organization.pdf
.....

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

文学部児童教育学科においては次のように学生の募集・選考基準を建学の精神に基づき設けている。

○児童教育専攻【全ての入試】

キリスト教精神における公正性の理解に努め、今後の人生において公正であることに努めようとする意志のある人。

【総合型選抜，学校推薦型選抜など】

大学入学までに、教育に関係するボランティア活動や、学級活動・部活動における指導的な経験を有するなど、進んで他者に奉仕しようとした実践的ボランティアの萌芽を確認することができ、本学科における学修によってその深化が期待できる人。

○幼児保育専攻【全ての入試】

キリスト教精神における公正性の理解に努め、今後の人生において公正であることに努めようとする意志のある人。

【総合型選抜，学校推薦型選抜など】

大学入学までに、教育や保育に関係するボランティア活動における指導的な経験を有するなど、進んで他者に奉仕しようとした実践的ボランティアの萌芽を確認することができ、本学科における学修によって、実践から学ぶ力・課題発見力を深化させ得ると期待できる人。

その他の学科における教職課程の履修は学生の進路希望によるものであるため、入学後の学生指導の中で教職志望者を確保・育成している。

文学部児童教育学科児童教育専攻は、元校長経験者を多く専任教員として採用し

ており、1年次の基礎ゼミの中で教職についての心構えを説明頂いている。また、積極的な学校におけるボランティアを促しており、毎年多くの学生が学校現場に参加している。

文学部児童教育学科幼児保育専攻は、県と連携した、高校生向け講座の実施、保育の魅力を伝える高校生向け YouTube 配信映像の作成、あるいは、オープンキャンパス時の模擬授業・高校生向けのオープンクラスなど、高校生に大学で、子どもについて学ぶ意義を実感してもらう機会を積極的に活用している。人材育成に関しては、「子育て支援実践演習」「地域発達支援演習」など、本学独自の科目を設定し、地域の子育ての課題に自覚的に向き合う保育実践力の育成に努めている。また、附属園をはじめとした、地域の幼児教育施設との良好な関係の中で、さまざまな形で学生時代に保育の現場を体験するよう促し、現代の保育の課題に取り組む強力な実践力を育成するよう努めている。

文学部現代英語学科は、「中学校及び高等学校の英語 1 種免許」を希望する学生は、入学時の資格ガイダンスで登録をし、1年次より教職関連の科目の履修を開始する。英語科教員として適切な人材には、「授業を英語で行う」ことができる英語力が必須であるため、毎年4月に英語力診断テストを受験させ、3年次2月までに一定の英語力をつけた学生だけが、4年次に中等教育実習へ行くことができる。

文化交流学科では、新入生オリエンテーションや教職課程登録ガイダンスにおいて教職課程履修上の心構えや履修計画について説明することで、将来教師になるという明確な目標を持つ学生を確保している。

生活科学部心理福祉学科は、新入生オリエンテーションや教職課程登録ガイダンスにおいて教職への動機づけを図るとともに、学生の責任と自覚を促す機会を設けている。また多岐及び長期に渡る教職に関する主体的、持続的学びのためにアドバイザー、ゼミ担当教員とともに教職課程委員を配し、入学時から卒業時までを通して継続的観点から各学生の課題把握と支援を行っている。

生活科学部食物健康科学科は、家庭科教員免許取得可能な大学が近隣にないため

この学科を目指して入学してくる学生が少なからずいる。明るく素直でコミュニケーション能力も高く学校現場の評判も良いと耳にしている。

看護学部看護学科は、卒業要件を満たすことにより看護師受験資格を得ることができる。養護教諭一種免許以外にも、保健師（選抜制）の受験資格も得ることができる。養護教諭一種免許は選択制である。年度初めに学科ガイダンスのみならず資格ガイダンスを実施し、将来を展望させ、履修の意志を確認する。定期的なアドバイザー教員との面談では、職業選択について考える機会を設けている。さらに、実習担当教員が『IC 教職履修カルテ』をもとにした面談を実施している。以上のシステムを経て、様々な動機をもって入学してくる学生が、教職を選択する厳しさと充実感を知り、納得して履修の継続や中止を決定している。また、実習に際し、教職を選ぶという覚悟を確かにして臨むことができる。

経営学部経営学科は、教職資格別ガイダンス等において教職課程履修上の心構えや履修計画について説明を行っている。

.....

〔長所・特色〕

目標とする学習成果の1つである「総合的な人間力」をもった教師の育成については、入学時から、人生をより豊かに潤す幅広い教養、国際的感性、学際的力を培う科目群を擁した全学教養課程を充実させ、学位授与方針に謳われた「公正性」「学修に主体的に取り組む態度」を育成している。教職課程の履修と並行して、全学教養課程において、教師を目指す学生のみならず、様々な夢を持って入学した学生たちが交流し、相互理解を深めながら、幅広く人間を理解するための基礎的な力を培っている。

本学では教職を取得している学生と教員が身近に接することができる環境にあり、授業の中での学生の様子をもとに声をかけたり、進路に向けての相談に応じたりすることが日常的に行われており、学生の教職への希望を実現すると同時に、進路変更についてもより良い方向に進めるよう支援している。また教職課程委員会で

は、学生が教職課程の履修を自ら確認できるよう、毎年「教職課程履修の手引き」を作成し、教員を目指す学生の円滑な履修を支援している。

文学部児童教育学科児童教育専攻は、毎年度の学年別ガイダンスや教育実習の事前指導を通して、教員としての心構えを本学専任教員や現職の校長や教育委員会職員より指導を賜っている。

文学部児童教育学科幼児保育専攻は、本学で育てた4年次生の声を高校生に直接届ける機会を積極的に捉え、入学志望者に大学での学びの成果を実感してもらうよう努めている。また、本学を卒業し、幼児教育の場で活躍する卒業生の声を、直接、在学生に届ける機会を設けている。人材育成の機会として、地域の子育て世代が参加できる様々な子育て支援講座を、学内で年間のべ40回程度開講し、学生が託児担当者、講座アシスタントとして参加している。また、本学教員が携わる近隣市町村の発達相談の場に、アシスタントとして4年次の学生を同席させている。このような現場での学びは、「子育て支援実践演習」「地域発達支援演」の一環として位置づけられており、現場体験の後、カンファレンス・教室での発表・体験の共有を通して、現代の子育て・保育の課題に向き合う、高度な専門性を育成している。

文学部現代英語学科では、教職履修者の資格ガイダンスにおいて、「コアカリキュラム」に係る科目の履修を漏れなく行うこと、実習参加条件として、「GPA2.0以上」に加えて、現代英語学科では、コアカリキュラムに該当する科目について、「GPA2.5以上」という条件があることを周知して、適切な人材（学生）の確保・育成に努めている。 ……………

文学部文化交流学科は、『IC教職履修カルテ』の作成や担当教員からの継続的な指導を通じて、教職を志望する学生が履修上の課題を自覚し、不足する知識・技能を補うことで、教職課程をより円滑に履修できるような体制になっている。

生活科学部心理福祉学科は、『IC教職履修カルテ』の作成や担当教員からの継続的な指導を通して学生自らが課題を自覚しその達成に主体的かつ継続して取り組

む体制を整備している。また教員の本文としてのよき授業を展開する力を獲得するために教科「福祉」に関する学びとして講義だけでなく演習，実習の機会を積極的に設けている。

生活科学部食物健康科学科は，管理栄養士のための校外実習の経験やグループ実験などによってマナーやコミュニケーション能力の向上が図られ，教育実習の評価につながっている。また，学科カリキュラムと教職課程における個人学習やグループ学習等の様々な学習形態，体験が人材育成につながっている。教職課程登録ガイダンスにおいて，教職課程履修上の心構えや履修計画について説明することで将来教師になるという明確な目的を持つ学生を確保している。

看護学部看護学科は，選択制を敷き，面接の機会を設定しているため，希望すれば誰でも履修することができる反面，在学中の履修状況や学校ボランティア体験を踏まえ，とりやめることも自由である。入学時の履修登録者は30～40人だが，面談を繰り返す中で学生自身が興味や適性を吟味し，進路を選択していく。最終的には，強い意志のある学生のみが養護実習を履修するようになり，多くの学生は好成績を収め，卒業後も早期離職は少ない。

経営学部経営学科は，教職資格別ガイダンス等で教職課程履修上の心構えや履修計画について説明することで将来教師になるという明確な目的を持つ学生を確保している。

.....

〔取り組み上の課題〕

本学が位置する茨城県北部は特に人口減少が激しい地域でもあるため，入学生の確保に苦勞している。教職の魅力や本学での4年間での学びについてより積極的に県内の高校に出向き伝えていく必要がある。

また，学科により教職を希望する学生の数に大きな差があることも課題である。教職については学科単位で考えず，大学全体として教職を志望する学生相互の関係性づくりを促していくことが求められる。

.....

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1 : 茨城キリスト教大学『履修要覧』
 - ・資料 2-1-2 : 茨城キリスト教大学『IC 教職履修カルテ』
-

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

教員採用試験対策室を中心に、学生に対し教職に関する情報提供や個別相談を実施している。1年次から参加可能であり、Teams によるオンラインでも情報提供等を行っているため、いつでも最新の情報にコンタクトすることが可能である。また、本学では教員採用試験対策室をキャリア支援センターに位置づかせているため、教職のみならず学生のニーズに応じたキャリア支援を組織的に実施可能である。

近隣の教職課程を有する大学である茨城大学、常磐大学と三大学連携を結んでおり、お互いの教職課程に関する情報交換を行っているとともに、茨城県教育研修センターと三大学共同の教員の魅力セミナーを毎年度実施している。他にも茨城県教育委員会、茨城県教育研修センターとの連携講座も実施しており、教育委員会は茨城県の教育の現状などの基礎・基本的な内容について、教育研修センターはケース会議やグループディスカッション等実践的な内容についてご指導いただいている。

以上のことから、本学では教員採用試験のみならず、教職そのものに対するキャリア支援を多数実施している。

さらに、本学を卒業した教職員によるネットワークである「茨城キリスト教大学教育関係者ネットワーク」(Network of Ibaraki Christian University Educators ; NICE) が 2022 年度に発足し、卒業生同士の交流や、在學生と現教職員の卒業生との交流も行っている。

〔長所・特色〕

2021年よりキャリア支援センターに教員採用試験対策室が設置され、学生の指導に当たっている。教員採用試験のための対策講座を軸とし、毎月、各テーマに沿った教員採用試験対策の実践講座を実施している。さらには現職や教育委員会に携わる外部講師を招いての講座も行い、実力強化を図っている。また試験対策のみならず、進路や学習に関する悩み、教師の仕事や採用試験に関する不安などの相談も行っている。加えて学習ボランティアなどで積極的に経験を積むようなアドバイスや、即戦力として活躍できるようなサポートも充実している。

教員になるという強い志があれば、学部や学年を問わず、全学生及び卒業生が対策講座に参加できる。本学では全教職員の協力のもと、充実したサポート体制により、毎年多数の合格者を送り出している。

〔取り組み上の課題〕

現段階では教育委員会や教育研修センターとの連携講座への参加は任意となっており、そのため積極的に参加する学生とそうでない学生が混在している状況となっている。例えば『IC 教職履修カルテ』にこうした講座の受講歴や得た学びの成果を記述する欄を設けるなど、積極的な参加を呼び掛けられる仕組みを作ることが今後の課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：茨城キリスト教大学ウェブサイト「教員採用試験対策室」
<https://www.icc.ac.jp/career/teacher/index.html>
- ・資料2-2-2：茨城キリスト教大学ウェブサイト「教育関係者ネットワーク (NICE)」
<https://www.icc.ac.jp/almuni/nice.html>

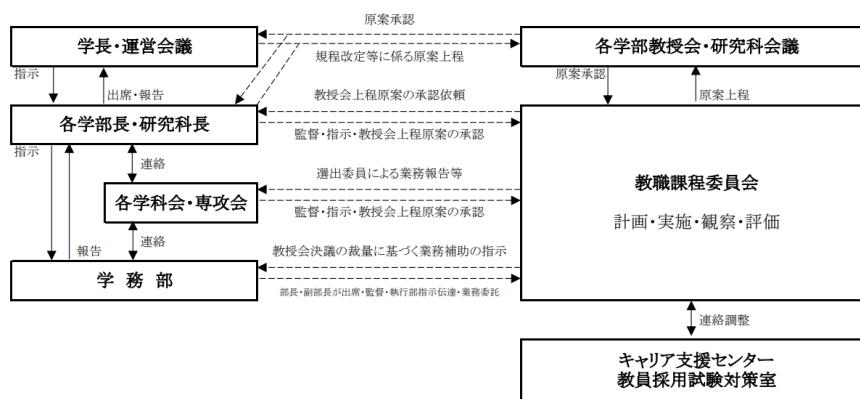
基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

教職課程は法令の規定に基づき、①「全学教養科目（日本国憲法，体育，外国語コミュニケーション，情報機器の操作）」，②「教科及び教科の指導法に関する科目」，③「教育の基礎的理解に関する科目等」，④「大学が独自に設定する科目」，⑤「介護等体験（幼稚園免許取得課程を除く）から構成されている。

教職課程カリキュラムは，教免法等の規定を踏まえ，各学科等が教職課程の責任と教員養成目標を念頭に原案を作成する．起案されたカリキュラム原案は教育課程評議会が内容を吟味・検討し，学科等に助言する．その後，教職課程委員会及び各学部教授会の審議を経て実施されている．また，学科等の教育課程の再編成の際には，「教科専門」「教科指導」「教職専門」の各科目・領域間の系統性の再確認を行っている．



2019年度に再課程認定が承認され，2022年現在，コアカリキュラムに対応した教職課程が各学科・専攻で実践されている．これらのカリキュラムは各学科・専攻が起案し，教職課程委員会，学務部により確認され，教育課程評議会・学部教授会で承認された後に実践されている．また2月～3月の翌年度のシラバス執筆依頼の際に，各担当教員から提出されたシラバスがコアカリキュラムに準拠したものとなっているかの確認を行っている．

児童教育学科児童教育専攻及び児童教育学科幼児保育専攻では、ほとんどの科目が卒業単位に含まれる授業として設置している。

現代英語学科では、教科に関する専門的事項と各教科の指導法を卒業単位に含まれる授業として設置している。

その他の学科においては、教科に関する専門的事項のみが各学科の卒業単位に含まれる授業として設置している。

〔長所・特色〕

本学は4学部8学科専攻から成り、幼稚園、小学校、中学校英語、高等学校英語、中学校社会、高等学校公民、高等学校地歴、高等学校福祉、中学校家庭、高等学校家庭、栄養、養護の各一種免許取得課程を擁し、3研究科から成る大学院では、中学校英語、高等学校英語、中学校家庭、高等学校家庭、栄養の各専修免許取得課程を擁している。

「確かな力量」をもった教師の育成のために、示範授業、模擬授業、マイクロティーチング等の正課活動から学位授与方針に謳われた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を高め、実践的な指導力を育成することを目標に教職課程を実践している。本学の教職課程カリキュラムは、学科等が検討した案を学務部が確認・助言した後、教職課程委員会、教育課程評議会を経て各学部教授会で審議され、承認後に実施される。こうした幾重にもわたるプロセスを経て、教職課程の適切性を維持している。

.....

〔取り組み上の課題〕

本大学では全ての学科専攻に教職課程を設けているが、学科専攻によっては他の資格を取得することを中心としているところもあり、そのため教職科目に関しては、他の科目の単位の修得状況によっては履修が難しくなることがある。今後は各学科専攻の特色を活かしたより柔軟な教職課程カリキュラムの編成が求められる。……

.....
<根拠となる資料・データ等>

・資料3-1-1：茨城キリスト教大学ウェブサイト 「教職課程に関する情報公開 2.教員養成に係る組織」

https://www.icc.ac.jp/about/disclosure/No.12/teacher_organization.pdf

・資料3-1-2：茨城キリスト教大学ウェブサイト 「教職課程に関する情報公開 1.教員養成の目標とその計画」

https://www.icc.ac.jp/about/disclosure/No.12/teacher_goal.pdf
.....

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

本学は大学が位置する日立市の教育委員会との連携を行っており、給食の時間のみといった短時間から一日中といった長時間まで幅広い選択肢の学校ボランティアの機会を提供している。学生が自身の時間割を見つつ、空いた時間に近隣の学校の教育活動に参加することが可能である。

各教職課程の履修に関して、教育実習を受講するための条件を設定している。学生が教壇に立つためには「教員になる意志」及び「児童生徒の学習指導等を行う上で十分な学力」が必要である。そこで、本学では教育実習の履修に関して、本学独自の一般教養試験の受検及び一定以上のGPAの獲得、教職課程において必要な科目の修得等を学生の履修上の基準としている。

.....
〔長所・特色〕

2018年度から茨城大学、常磐大学、本学で「三大学教員養成連携協議会」を発足し、茨城県における教員養成機能を強化している。また2021年には茨城県教育研修センターと授業派遣や人材交流、教育研究に関する協定を結んでいる。茨城県

教育委員会との連携講座もおよそ10年に渡って実施しており、茨城県全体としての教員養成の一助を担っていると言える。……………

……………

〔取り組み上の課題〕

大学近隣から通っている学生は積極的に学校ボランティアに参加しているが、福島県や茨城県南部から通っている学生においては、通学時間の問題等のために参加率が低い現状がある。授業の合間の時間にも学校ボランティアに参加出来ることをより強く伝えていく必要がある。……………

……………

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：『教職課程履修の手引き』

……………

Ⅲ. 総合評価

本学の教職課程について、基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」、基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」、基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」の3つの視点から自己点検評価を実施した。その結果、教職課程認定基準を満たしつつも本学独自の魅力ある教職課程が実施されていることが再確認された。本学は全ての校種（科目は除く）の教職課程を有している。校種ごとに特色ある取り組みが数多くなされていることは高く評価することができるだろう。一方で以下のような課題も確認された。

一つ目が、小学校課程の教職履修学生の減少である。小学校課程を有している児童教育学科児童教育専攻は4年連続入学定員を満たせていない。当然そのことに伴い、教職志望者も減少傾向にある。県内の高校の教員と連携し、小学校の教員についての魅力をよりアピールしていくことが求められる。

二つ目が、ICTの有効的な活用についてである。今年度の自己点検においてはICTについては最低限の取り組みしか実施されていないことが分かった。本学では2023年度からBYODを実施し、全ての学部の学生に対しPC等を持参するように呼び掛けている。教職の授業においても積極的な活用が望まれる。……………

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学では教職に係る全学的な組織として教職課程委員会が設置されており、本学教職課程に関わる計画・実施・観察・評価を第一義的に担う組織である。そこで教職課程委員長を中心に、学内の教職課程の自己点検評価を行うことを決定し、実施方針及び手順、評価内容の決定を行った。

令和4年度における自己点検評価の主な実施目標は、本学7学科の教職課程全体の質的改善を図るための基礎資料を得るために、各学科の教職課程の現状と課題の把握とした。実施組織は、教職課程委員会及び学務部とし、自己点検・評価の基準項目は1-1 教職課程の目的・目標の共有、1-2 教職課程に関する組織的工

夫，2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成，2-2 教職へのキャリア支援，3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施，3-2 実践的指導力育成と地域との連携とした。本目標及び評価に関する事項を教職課程委員に伝達し，自己点検評価を開始した。

自己点検の主な事項として，各学科の取り組み及び法令由来事項の確認を実施した。また教職課程委員会において各事項を分析し，全体評価を原案としてまとめ，学長に総合評価を依頼した。最後に，2022年度の「教職課程自己点検評価報告書」原案を作成し，学長に提出して承認を得て大学HPにて公表した。なお，本自己点検評価に基づくアクションプランの策定は，2023年度に実施を検討している。

.....

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 茨城キリスト教学園					
大学・学部名 茨城キリスト教大学 文学部 生活科学部 看護学部 経営学部 茨城キリスト教大学大学院 文学研究科 生活科学研究科 看護学研究科					
学科・コース名（必要な場合） 文学部：児童教育学科児童教育専攻，児童教育学科幼児保育専攻，現代英語学科，文化交流学科 生活科学部：心理福祉学科，食物健康科学科 看護学部：看護学科 経営学部：経営学科 文学研究科：英語コミュニケーション専攻 生活科学研究科：食物健康科学専攻 看護学研究科：看護学専攻					
1 卒業生数，教員免許状取得者数，教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数				学部：618名 大学院：6名	
② ①のうち，就職者数（企業，公務員等を含む）				学部：560名 大学院：6名	
③ ①のうち，教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）				学部：173名 大学院：0名	
④ ②のうち，教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）				学部：76名 大学院：1名	
⑤ のうち，正規採用者数				学部：57 大学院：1名	
④ のうち，臨時的任用者数				学部：19 大学院：0名	
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（兼任講師）
教員数	48	24	25	17	233
相談員・支援員など専門職員数					